

# かみたかお ふるさとづくり上高尾の会【伊賀市上高尾地区】

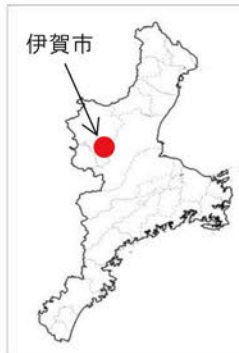
- 京阪神を中心とした都市住民との交流を通じ、上高尾をサポートする京阪神地区の会が発足！
- 遊休資源を活用した民泊と多目的レストハウスにより、日帰り型から滞在型の交流へと発展！

## 地域の概要

上高尾地区は伊賀市の最南端に位置し、木津川の源流域にあたる標高500mの山間地域である。

奥深い山々に点在する谷間の集落で構成され、過疎化・高齢化が進む。

地域の農業は水田作が中心で、家屋周辺で自家用の野菜が栽培されている。経営規模は零細で、耕作条件の悪い農地では荒廃化も進みつつある。



多目的レストハウス「ハナレ」での交流風景

## 取組の背景

少子高齢化の進行等により、地域の活力維持に支障が出てくる中で、「ふるさとを残すための活動をみんなで実践する」との共通認識のもと、平成22年1月、住民有志による「ふるさとづくり上高尾の会」が発足した。

伊賀市および国からの補助金も活用しながら、地域住民が一丸となり、京阪神を中心とした都市住民との交流や、「藁灰こんにやく」の生産・販売、多目的レストハウス「ハナレ」の運営に取り組んでいる。

## 取組のポイント

### ポイント1 古民家を活用した民泊施設の整備により滞在型の交流へのステップアップ

- ・ 野菜づくり体験や里山散策などを通じて、京阪神の都市住民との交流を継続してきた結果、平成25年には、上高尾をサポートする組織として「京阪神地区の会：オコシス」（約20名）が発足している。
- ・ 都市との交流が深まる中、平成29年には、古民家を改修して民泊施設「二瀬屋」を整備し、体験型から滞在型の交流へとステップアップしている。
- ・ 京都大学での学園祭や大阪南田辺の商店街などへ出張し、「源流米」や「藁灰こんにやく」の販売を行い、新たなファンづくりにも努めている。



古民家を改修した民泊施設「二瀬屋」

### ポイント2 多目的レストハウス「ハナレ」のオープンで、交流の輪を拡大

- ・ 女性が表舞台に出て、はつらつと自己表現できる場として、また食を通じた新たな交流の拠点として、旧中学校分校の建物をリニューアルし、レストランやカフェとして利用できる多目的レストハウス「ハナレ」をオープン（平成28年）した。
- ・ 上高尾の女子会「上高尾シスターズ」が、自ら作った「藁灰こんにやく」などの地元食材を用いた週末レストランを行うほか、里山の食を体験するイベント会場などにも活用され、交流の輪が広がっている。

## 今後の展望

遊休農地や手入れの行き届かない山林等を「地域の独自資源」と捉えて向き合うとともに、都市住民の移住定住先としての地域づくりをめざしていく。

### ◆本事例に関する問い合わせ先◆

三重県伊賀農林事務所農政室地域農政課  
電話 0595-24-8108